

2007. 6. 24 第 51号

北九州イノベーションギャラリー 開館記念

第1回 イノベーション・フォーラム開催

「21世紀のイノベーションを求めて」



写真手前：北九州イノベーションギャラリー

写真後方：東田第一高炉史跡広場

北九州イノベーションギャラリー（酒井英孝館長）では、今年4月21日に開館して以来、二ヶ月になり予想どおり約14,500人の入場者となっているが、きたる6月27日、北九州イノベーションギャラリー「プレゼンテーションスタジオ」において、「21世紀のイノベーションを求めて」と題した第1回目となるイノベーション・フォーラム開館記念講演を行う。

酒井館長は、同ギャラリーの開館時に「イノベーションとは、幅が広くて奥行きが深く理解しにくい言葉である。今日の意味あいでは技術革新ということになるが、技術革新だけで今の世の中になったのではない。労使関係においても革新があり、行政との関係においても革新がある。家族の中においても色んな工夫を凝らした革新があり、いろいろな意味あいがある。そういった裾野を広げた紹介の場にしていきたい。私たちは、そういう広がりの中でどういう方が、どういう動きをして、様々なイノベーションがあつて今があると伝えたい。また、それを今後いかしていくことができればよい」と語っていた。

現在地球においては、地球温暖化・環境破壊・エネルギー問題・人口増加などかつて経験したことのない大きな課題があり、それを克服し、成長していくためには、「イノベーション（技術革新）」が不可欠であるといわれている。わが国においても、合計特殊出生率（資料 H18 年：厚生労働省）は 1.32、府県別で一番低い東京では 1.02、福岡では 1.30、最高の沖縄では 1.74 と人口減少に歯止めがかからない。また、高齢化社会の急速な進展などの問題にも直面し、その重要性が指摘されており、目指すイノベーションの検討が行われている。

そうなか、同フォーラムでは、内閣府審議官（科学技術担当）谷 重男氏、九州工業大学学長下村輝夫氏、北九州市参与寺西大三郎氏、フロンティアカーボン（株）技術・製造センター長有川峯幸氏を迎えて、イノベーション立国の実現に向けて、産業・学会・官（行政）がどのように取り組んでいくべきかを考える。

講演・事例発表後、酒井館長より同ギャラリーの活動紹介も行われる。

なお、講演のテーマと講師はつぎのとおりである。

基調講演 内閣府審議官（科学技術担当）谷 重男氏「イノベーション政策の新展開」、基調講演 九州工業大学学長下村

輝夫氏「大学におけるイノベーターの育成教育」、事例映像 北九州市参与寺西大三郎氏「パーソナル・コンピュータはこうして生まれた」、事例発表 フロンティアカーボン（株）技術・製造センター長有川峯幸氏「夢の炭素材料フラーレンの量産化への挑戦」 対象者：企業の技術者、大学生等（興味のある方なら、どなたでも結構） 参加料：無料 定員：100 名 申込方法：FAX または E メールに住所・氏名・年齢をご記入の上、申込。申込締切：6 月 26 日（火） 申込先：北九州イノベーションギャラリー FAX093-663-5422 E メール kitaku@kigs.jp 問合せ先：北九州イノベーションギャラリー TEL093-663-5411



「家族の中にもイノベーションがある」と語った 酒井館長